

初期の渡辺版初日カバー 記念・特殊切手編

井戸垣俊弘

定年退職を機にカバー収集を始めて早10年が経ちました。カバーも色々でして、中には郵便史という観点から「適正使用の実通便、それも非郵趣家便しか興味がない」などと難しいことをいう人もいます。そのような人から見ると、切手・消印・カシェが醸し出す、「方寸の美」ならぬ「三位一体の美」という素朴すぎる基準でカバーを収集している私などは邪道でしょうが、逆に私からするとカシェの無い白封や汚れた実通便は収集の対象外。消印も貼り付け切手とバランスが取れた初日印、カシェも手造り感のあるものや肉筆・手刷り木版で仕上げた芸術性?の高いものが好ましいということになります。

収集した初日カバーから、前回までに「瀬戸口肉筆」、「日本郵便切手会（JPSA）」、「学生郵便切手会（SPAN）」、「ルイス肉筆」などの各版元のものを紹介してきましたが、今回は「渡辺版」をご紹介します。昭和23年から制作を開始した「渡辺版初日カバー」は、日本で最初の手刷り木版初日カバーであるのは皆さまご承知の通りで、版画専門店ならではの素晴らしい作品は多くの愛好家を生み、初日カバーのブランド品として確固たる地位を占めています。

■ 渡辺版初日カバー：

- ・前田晃氏（初日カバー愛好家：八日会）の企画で銀座の渡辺木版美術画舗の2代目店主渡辺規氏に依頼・制作・販売した日本で最初の手刷り木版初日カバー。第1号は、「第3回国体・水泳（1948.9.9）」。
- ・カシェの原画は郵政技官の他に「川瀬巴水」「名取春仙」「高田正二郎」「大塚慶治」等が担当して高い評価を得た。特に後述する「川瀬巴水」の人気は高く、渡辺版初日カバーの名声を不動のものにした。制作開始時は貼カシェであったが「産業図案・2 円農婦（1948.11.20）」からはカシェを直接封筒に刷り込む形式になった。手作業のため、他の後続の版元に比べると制作数は300～500部と少なかったが、愛好家の要望により、全日本郵便切手普及協会が販売を担当した異カシェ版を「銀座わたなべ版（全郵普販版）」として制作開始、「切手趣味週間・序の舞（1965.4.20）」がその第1号である。その後、切手ブームの衰退と共に、他の版元と同様に渡辺木版美術画舗も2012年にすべての初日カバーの制作を終了した。この結果、現在も初日カバーの作成を続けているのは、日本郵趣協会、鳴美などほんの数社に過ぎない。

■ 川瀬巴水：

川瀬巴水（かわせはすい：1883.5.18～1957.11.7）は、日本の大正・昭和期の版画家で、新しい浮世絵版画である新版画を創立した人物として知られる。近代風景版画の第一人者であり、日本各地を旅行して旅先の写生を原画とした版画作品を数多く発表。国内よりもむしろ海外での評価が高く、日本的な美しい風景を抒情豊かに表現した「旅情詩人」「旅の版画家」「昭和の広重」などと称される。

■ 巴水ブルー：

手刷り版画の魅力は、素朴で明瞭な刻線・水彩絵の具独特的の発色の美しさ・手刷り故の「木肌感」であろう。中でも川瀬巴水の青色の用い方は絶妙であり、その印象的な青色は「巴水ブルー」と呼ばれている。

今回の展示：

第1回作品から評価の高い昭和20年代末までの最初期の作品の中の記念切手・特殊切手のカバー92点をご紹介します。一部の巴水カバーについては以前ご紹介したことがあります、今回は押印を出来るだけ適正局のものへ変え、切手・封筒にシミや汚れの少ないものへと約半数を状態更新しています。個々のカバーの詳しい説明は当日に譲るとして、以下に特徴的なカバーの幾つかをご紹介しておきます。

- ・渡辺版の第1号は、「第3回国体・水泳（1948.9.9）」（図1）である。これとは別に、同一のカシェで特印の使用初日（1948.9.15）の「八幡特印」のカバーや、贈呈用に作成された高田正二郎原画の子供を図案にした異カシェのカバー（希少）がある。
- ・川瀬巴水の第1号は「熊本通信展（1948.9.20）」（図2）で、巴水カバーと類推されるものはこれを含めて約50点を数える。なかでも「切手趣味週間・平等院（1950.11.1）」（図3）はよく知られており背景の空に「朝焼け」と「夕焼け」の使い分けがみられるのも面白い。
- ・渡辺版には巴水の他にも「アルコール専売（1948.9.14）」（図4）、「UPU75年（1949.10.10）」（図5）や「切手趣味週間・月に雁（1949.11.1）」（図6）などのモダン？で端正なカシェの佳作が多くある。「御帰朝（1953.10.12）」（図7）は他の渡辺版とは異なった雰囲気があるが、この切手の田型貼りカバーは極めて珍しい。
- ・特殊切手「別府観光（1949.3.10）」（図8・朝の風景）も巴水の作品であるが、これは同時に作成された夜の風景と合わせて「巴水カバーの最高傑作の一つ」と評されている。
- ・全18点の「文化人切手シリーズ」の木版カバーを第1回の「野口英世」からすべて制作しているのは渡辺版だけである。一例として示す「西周（1952.1.31）」（図9）のように、このシリーズは肖像写真に頼り過ぎでやや凡庸（私見！）に感じられるのは残念。
- ・全10点の「観光百選シリーズ」はすべて巴水の原画である。「赤目四十八滝（1951.6.1）」（図10）では樹々の緑と流れる滝の新鮮さがみずみずしく、印象的な傑作である。

今回はスペースの関係で、まずは記念・特殊切手に限って紹介させて頂きました。次回は渡辺版の真骨頂である普通・航空・年賀・公園切手のカバーについてご紹介する予定です。

参考文献

- ・渡辺木版カバーリスト（渡辺木版の600枚）：宮崎清二（カバー研究会）1993
- ・しおび草：吉川洋一 編著（日本風景社）1995.1.25
- ・改訂新版・初日カバーカタログ：山崎好是 編（鳴美）1997
- ・版画家・川瀬巴水と渡辺版初日カバー：秋吉誠二郎（三好企画）2002
- ・Kawase Hasui: The complete wood block prints : (Hotei publishing / Leiden & Boston) 2008

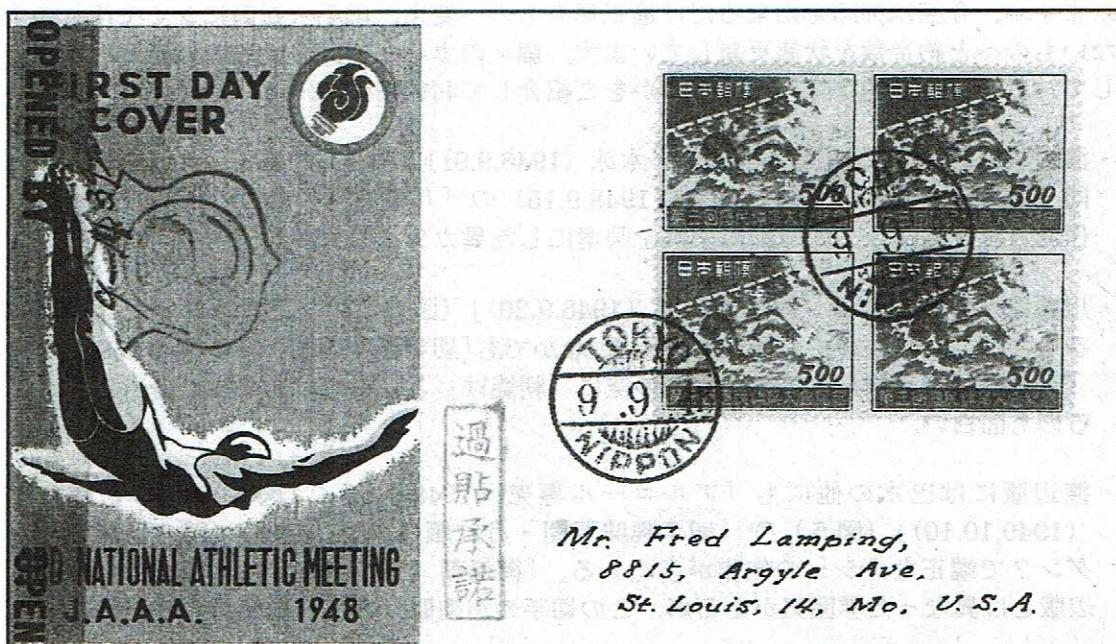


図1. 「第3回国体・水泳（1948.9.9）」渡辺版第1号



図2. 「熊本通信展（1948.9.20）」カシェ：川瀬巴水（第1号）

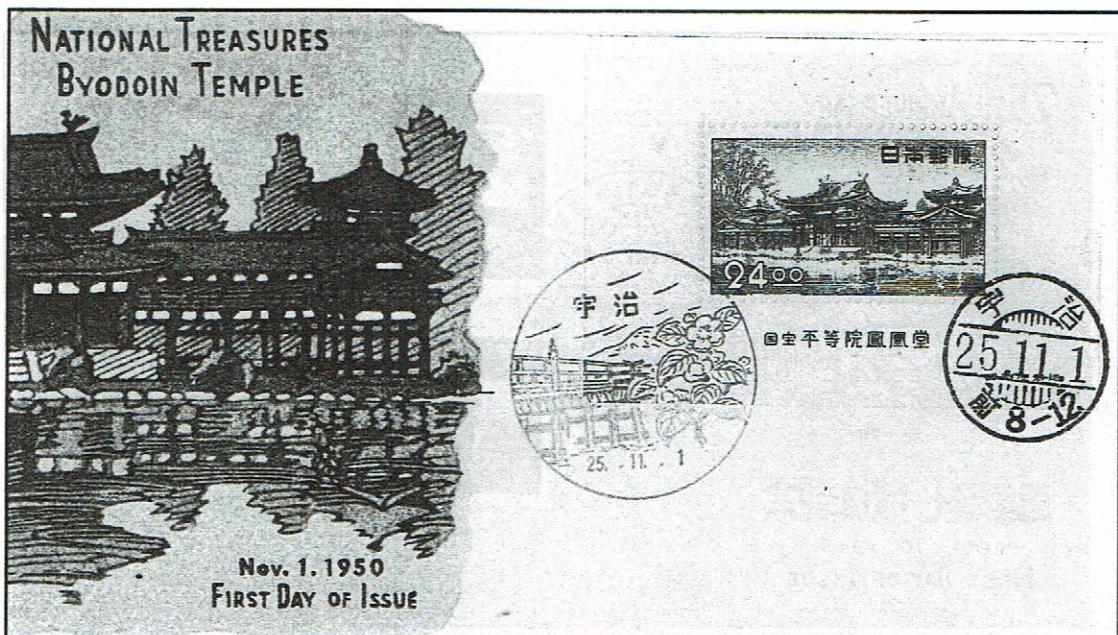


図3. 「切手趣味週間・平等院小型シート（1950.11.1）」 カシェ：川瀬巴水

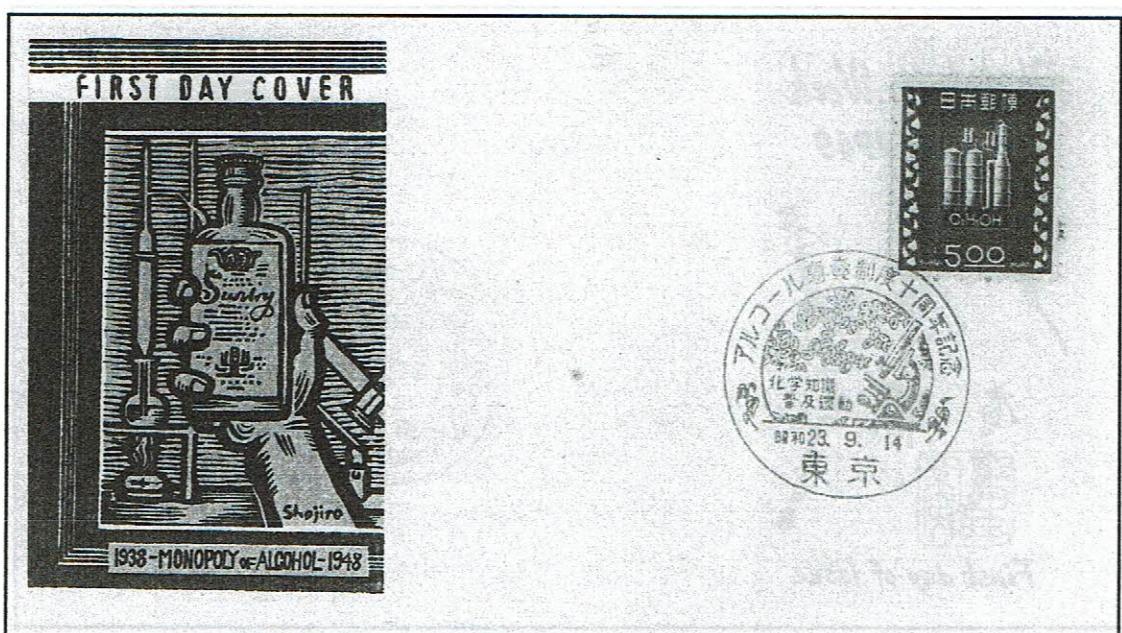


図4. 「アルコール専売（1948.9.14）」 カシェ：高田正二郎



図5. 「U.P.U. 75年 (1949.10.10)」

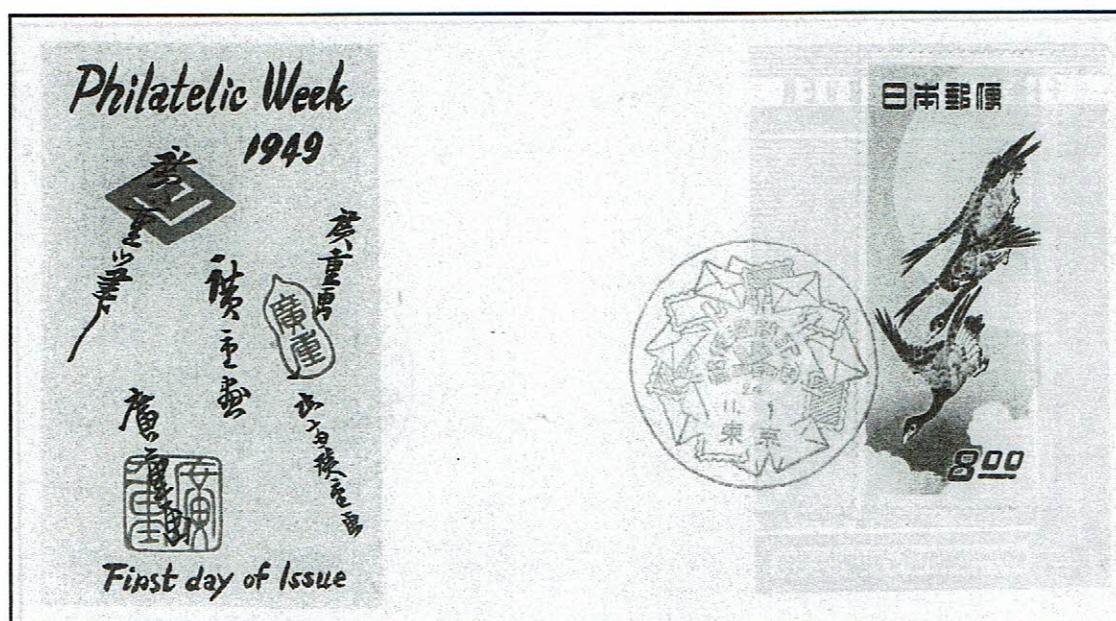


図6. 「切手趣味週間・月に雁 (1949.11.1)」



図7. 「御帰朝（1953.10.12）」

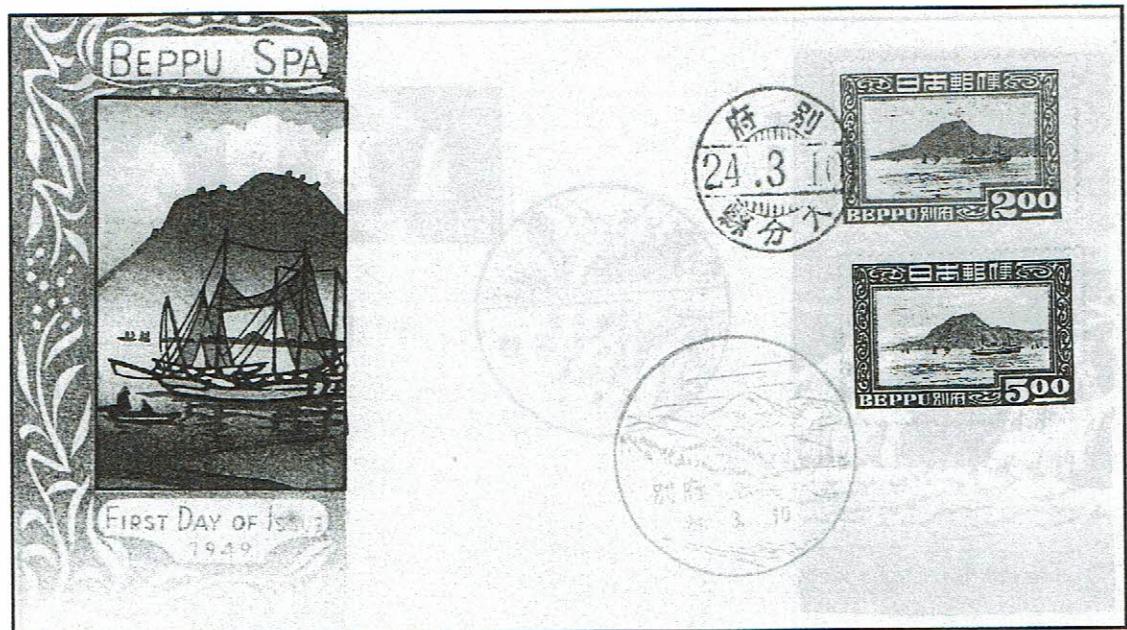


図8. 「別府観光（1949.3.10）」 カシェ：川瀬巴水



図9. 「西周 (1952.1.31)」

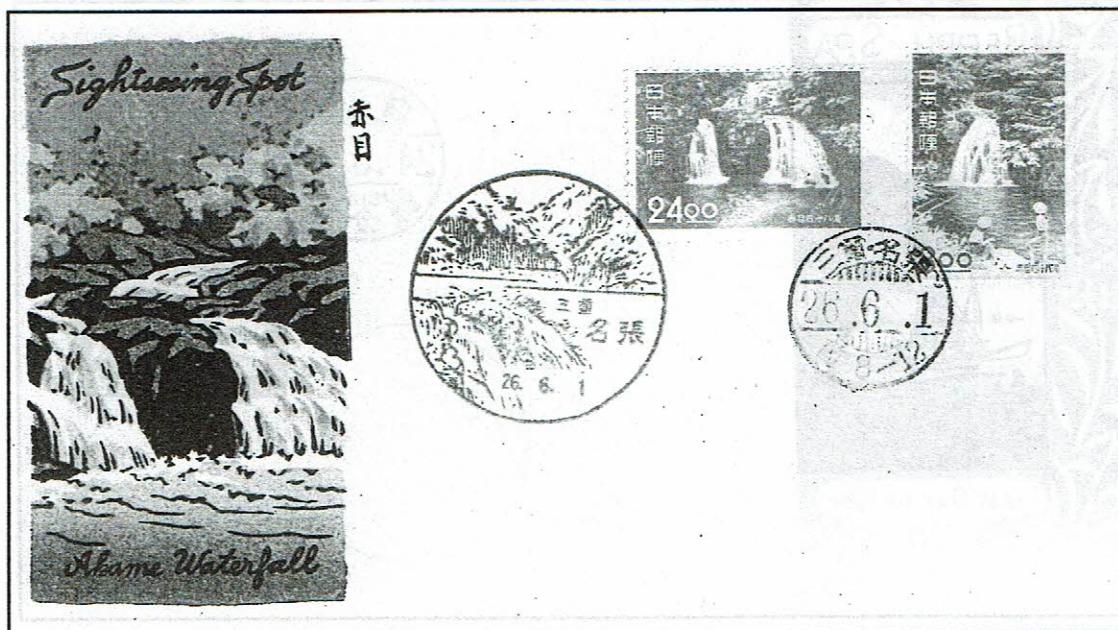


図10. 「赤目四十八滝 (1951.6.1)」 カシェ：川瀬巴水